

事業概要説明シート

事務事業番号 30649

事務事業名	枚方フェスティバル協議会支援事業(補)		
事業開始年度	昭和51年	担当部署	地域振興部文化観光課

根拠法令	決裁
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託又は指定管理(委託先又は指定管理者:)
	<input type="checkbox"/> その他()

目的 (何のために)	枚方まつりは、平成15年8月をもって花火大会を終了し、鑑賞型から市民参加型に変更された。まつりの実施主体である「枚方フェスティバル協議会」は、主催事業である枚方まつりのほか、協議会参画団体の関連事業を通じてふるさと枚方への愛着を一層深め魅力あるまちづくりを推進しており、同協議会に補助金を交付し支援する。
---------------	--

対象 (誰・何を対象に)	枚方フェスティバル協議会
-----------------	--------------

事業内容	枚方を代表するまつりであった花火大会は、安全・環境・資金等の事情により平成15年度をもって休止となり、花火大会にかわる新規事業として「市民による市民のためのまつり」が検討され、その運営組織として枚方青年会議所(JC)を中心とする実行委員会(現枚方フェスティバル協議会)が設立された。同協議会は主催事業である枚方まつりを実施し、また、同協議会参画団体が実施する、枚方・百済フェスティバル、七夕芸展、市民・芸能ファンタジー、ふとん太鼓巡行、ひらかたNPOフェスタ、淀川舟運イベント、枚方宿街道菊花祭等の事業が円滑に開催されるため、市と協働し会場の確保やイベント当日の人的支援やPRなどを行っている。
------	---

類似事業	
------	--

事業の必要性	行政主体から市民が自らの手で作り上げるイベントとして定着させるために支援が必要。
--------	--

コ ス ト		H22年度決算		H23年度決算		H24年度当初予算	
		従事職員数	概算人件費	従事職員数	概算人件費	従事職員数	概算人件費
正職員	1.00人	8,114千円	0.90人	7,281千円	0.90人	7,200千円	
再任用職員		0千円		0千円		0千円	
非常勤職員等							
人件費計(A)		8,114千円		7,281千円		7,200千円	
直接経費(B)		5,500千円		5,500千円		5,500千円	
総事業費(A+B)		13,614千円		12,781千円		12,700千円	

財源内訳		H22年度決算		H23年度決算		H24年度当初予算	
国庫支出金			千円		千円		千円
府支出金			千円		千円		千円
受益者負担 (使用料等)			千円		千円		千円
その他			千円		千円		千円
一般財源		13,614千円		12,781千円		12,700千円	

平成23年度 事業費の主な内訳 (人件費除く)	内 容	金 額
	枚方フェスティバル協議会補助金	5,500千円
		千円
		千円

事業概要説明シート

事務事業番号 30649

事務事業名	枚方フェスティバル協議会支援事業(補)		
事業開始年度	昭和51年	担当部署	地域振興部文化観光課

	活動指標もしくは成果指標	単位	H22年度	H23年度	H24年度(見込み)
活動実績	① まつり観客数	人	40,000	38,000	59,000
	②				
	③				
単位当たりコスト (総事業費/活動指標)	① 総事業費/まつり観客数	円	340	336	215
	②				
	③				
成果目標 (目標とする成果)	主催事業である枚方まつりへの観客数の増加。				
比較参考値 (他自治体での事業の例など)					
特記事項	平成15年夏に最後の花火大会を実施。平成16年度より枚方新まつりに運営補助を支出。平成21年度に補助額を見直し減額。以降同額で推移している中、平成24年は大幅に来場者数が伸び、事業として効果的な執行であることを示している。 事業全体の経費は抑制しているが、自主財源である賛助金の徴集実績が停滞気味である。広く理解や協力を得られるようにするために、事業の魅力発信について掘り下げる必要がある。				
一次点検における事業の今後の方向性及び具体的な今後の取り組み方針	現状のまま継続	各事業団体や産・官・学・民の連携をより一層強化していく。			
一次評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・目的と活動が合致していないのでは ・補助金事業として見直しが必要があるのでは ・費用対効果の検証が必要では 				
二次点検における事業の今後の方向性及び具体的な今後の取り組み方針	現状のまま継続	枚方フェスティバル協議会は、JCを中心とした民間主導の組織体で、主催事業である枚方まつりをはじめ、春から秋にかけて様々なイベントを展開し、集客などのにぎわいづくりで成果を上げ、郷土枚方の魅力向上に努めている。今後とも産官学民によるまちづくりの協働プラットフォームとして魅力ある事業を展開し、広く民間賛助や市民参加がなされることを目指し効果的な支援を行っていく。6万人近い観客が来場する発信力のある事業を展開しており、実行委員会が賛助金などの自主財源を確保しているため、補助事業としては観客1人あたりにかかった単位コストが127円となっており、本市の発信事業としては相対的に費用対効果の高い事業といえる。			